

地球惑星科学委員会 地球惑星科学国際連携分科会  
(第23期・第3回)

議 事 録

1 日 時 平成29年7月4日(火) 10:15~11:55

2 会 場 日本学術会議6階 6-A(2)会議室

3. 出席者

大久保修平(地球惑星科学委員会委員長)、大谷栄治(IMA分科会委員長)、木村 学(地球惑星科学企画分科会委員)、佐々木晶(COSPAR分科会委員長)、白石和行(SCAR小委員会委員長)、中村卓司(SCOSTEP小委員会委員長; 議事録担当)、中村尚(本分科会委員長、IWD合同分科会委員長; 議事録担当)、羽田亨(STPP小委員会委員長; 分科会参考人、スカイプ参加)、春山成子(IGU分科会委員長)、藤井良一(地球惑星科学企画分科会委員)、松本良(IUGS分科会委員長)、山形俊男(SCOR分科会委員長)、  
オブザーバ: 渡邊堯(WDS小委員会委員長)、村山泰啓(WDS小委員会)

事務局: 駒木大助

- ・欠席者 奥村晃史(INQUA分科会委員長)、杉本敦子(IASC小委員会委員長)、中田節也(IUGG分科会委員長)

4 議 題 等

1. 前回議事録(案)の確認
2. 関連分科会・小委員会からの報告事項
3. 第24期へ向けての申し送り事項
4. その他

5 配 布 資 料

- 資料1 前回議事録(案)
- 資料2-1 SCOSTEP小委員会報告
- 資料2-2 SCAR小委員会報告
- 資料2-3 IASC小委員会報告
- 資料2-4 STPP小委員会報告
- 資料2-5 WDS小委員会報告
- 資料2-6 INQUA分科会報告
- 資料2-7 IMA分科会報告
- 資料2-8 IUGG分科会報告
- 資料2-9 IGU分科会報告
- 資料2-10 COSPAR分科会報告

- 資料 2-11 IWD 合同分科会報告
- 資料 2-12 SCOR 分科会報告（追加資料）
- 資料 3 地球惑星科学委員会組織図

## 6. 議事

0. 議事に先立ち、以下の事項が中村 尚委員長から提案され、出席者全員で全て了承した。本提案については事前に委員全員にメール送付されており、異論は出されなかった。
  - ・本日の第3回委員会が第23期最後の開催となるため、議事録の最終的な確定は本分科会の中村 尚委員長に一任する。
  - ・それに先立ち、議事録最終案は全委員・全オブザーバに送付し、全員から確認・了承を得る。

### 1. 前回議事録（案）の確認

とくに指摘事項はなく承認された。

### 2. 関連分科会・小委員会からの報告事項（資料3も参照）

#### (1) IGU 分科会（春山 IGU 分科会委員長）（資料2-9）

分科会は年3回開催した。2015年モスクワ会議、2016年北京会議において日本からのセッション提案を行った。2016年12月にはIYGUへの対応として学術フォーラムを開催した。2018年にIGU役員会を誘致するとともに公開シンポジウム開催についての準備を行った。2018年開催のWSSF（世界社会科学フォーラム）へのセッション提案の準備を行った。今期では地名小委員会を設置し、合同会議開催の中で国連地名標準化委員会議長（W. Watt 博士）を招聘して世界の地名委員会の動向と日本での地名委員会設置の必要性を議論し、提言案「地名行政の統合強化と地名委員会の設置」を取りまとめた。また、ICA 東京会議の準備について審議した。

#### (2) SCOSTEP 小委員会（中村卓司 SCOSTEP 小委員会委員長）（資料2-1）

第3回小委員会を昨年5月、第4回を本年5月に開催した。SCOSTEPは現在2014年ー2018年の5年間でVarSITI（太陽活動変動とその地球への影響）国際協同観測研究プログラムを実施中で、そのフォローが国際対応として中心であった。同プログラムのco-chairに塩川和夫委員、SCOSTEP理事会には中村卓司委員長が参加した。また、STPP小委員会との統合準備を進めつつあり、24期に合同小委員会を立ち上げる予定である。また、国際SCOSTEPでは会長・副会長交代時の連続性を保つために前会長を理事会メンバーとするConstitutionの変更が理事会で決議され、今後代表者会議を経て来年のICSU総会に諮られる予定である。

#### (3) SCAR 小委員会（白石 SCAR 小委員会委員長）（資料2-2）

4回開催した小委員会にて、2016年8月開催（クアラルンプール）のSCAR総会及びオープンサイエンスコンファレンス（OSC）への支援・対応を行った。OSCでは初めて人

文・社会学系のセッションが設けられた。総会では会員国としての日本のカテゴリに変更がないことが確認された。IASC・SCAR 合同開催となる 2018 年 OSC「POLAR 2018」(スイス・ダボス)への支援・対応も開始した。さらに、SCAR 加盟アジア国フォーラム(AFoPS)の企画として、タイ・モンゴル・インドネシアの若手地学研究者を日本の南極観測隊に招き共同調査を実施した。一方、大型研究計画マスタープラン提案を IASC 小委員会と共同で提出した。第 5 回会合(2017 年 7 月)では、南極関連研究者・対応者の組織化のための Researchmap の活用など、24 期へ引き継ぐ事項を議論する予定である。

(4) IASC 小委員会報告(中村委員長代読)(資料 2-3)

ASSW に IASC の日本代表、WG 委員を選出し派遣している。2015 年 4 月には JCAR と連携し、ASSW2015 を富山で開催し、IASC の活動に貢献した。小委員会は 9 月に 23 期最終の第 10 回委員会の開催を計画している。また、2018 年 1 月に東京において IASR-5 の開催を予定し、JCAR と協力し準備を進めている。その他、IASC 小委員会委員が中心となり、「北極域研究における日本の取り組みに関する将来展望ワークショップ」を 2017 年 1 月に開催し、この 2 回目のワークショップを 9 月に開催予定である。

(5) STPP 小委員会報告(羽田 STPP 小委員会委員長)(資料 2-4)

・IHY, ILWS, ISWI など、太陽地球系物理学の国際研究計画のうち特定の国際委員会に属さないものと協働して、国際・国内対応を中心に俯瞰的な見地から活動を行った。九大 ICSWSE や京大理附属天文台で研究支援、キャパシティビルディングなどの活動を行った。本年 5 月に小委員会を開催し、SCOSTEP 小委員会との合同の可能性も含め、議論した。

(6) WDS 小委員会報告(渡邊 WDS 小委員会委員長)(資料 2-5)

第 23 期第 3 回 WDS 小委員会(2017 年 3 月)にて、2017 年 9 月末に京都大学にて開催予定の WDS Asia-Oceania Conference 2017 の開催支援を行う事を承認した。関連して、小委員会が研究集会等の主催団体になることなどに対する制限の緩和について、学術会議に問題提起を行うこととなった。24 期においては、データに対する DOI 付与の拡大、オープンデータに向けた基盤整備、人文・社会系データ活動との連携等を進めることが了承された。また IUGG データ情報連合委員会(UCDI: Union Commission on Data and Information)で委員改選があり、村山泰啓特任連携会員が IAMAS 幹事に就任した。

(7) INQUA 分科会(中村委員長より代読)(資料 2-6)

第 23 期第 3 回分科会(2015 年 12 月)では、INQUA 名古屋大会について組織委員会から最終の報告を受けるとともに、講演要旨集・開催報告書を作成した。第 4 回分科会(28 年 12 月)では、第四紀層序・編年に関わる議論についての情報を収集し対応を検討した。それを踏まえ、中部更新統基底 GSSP 千葉セクション(チバニアン)について平成 29 年 6 月の申請と審査委員選出(齋藤文紀氏)に協力した。

(8) IMA 分科会 (大谷 IMA 分科会委員長) (資料 2-7)

2016 年 2 月以降 3 回の分科会を開催し (うち 1 回は非公式な IMA 国内委員会)、2018 年 IMA 総会 (オーストラリア・メルボルン開催) に向け、国内外向けに様々な発信を強めることとした。具体的には、セッション提案や総会 LOC の Mill 博士招聘など活発な対外発信を展開するとともに、我が国が主導するコミッションにおいて国際誌特別号の企画を検討することとした。この他 23 期の活動として、2016 年ゴールドシュミット会議 (神戸) や JpGU-AGU2017 年合同大会において、LOC やプログラム委員長などとして重要な貢献を行った。さらに、IMA アワード推薦の対応、若手研究者の対外活動の支援、並びに大型研究マスタープラン作成への支援を行った。

(9) IUGS 分科会 (松本 IUGS 分科会委員長) (資料なし)

IUGS は 2016 年 8 月に総会と万国地質学会議 (IGC) を開催した (南アフリカ)。総会で、カウンセラーの小川勇二郎氏が退任したが、北里 洋氏が財務理事に選出され、日本からの関与が一層強化された。それを踏まえての IUGS 分科会 (2016 年 10 月) にて、北里前委員長から松本現委員長への交替を承認した。2017 年 3 月の分科会で重点的に取り組むべき課題を決定した。その 1 つとして地質災害への取組み強化と国際ネットワーク構築、人材育成を目指すジオハザード Task Group が発足した (東北大学に事務局)。さらに、”チバニアン”採択へ向けての支援も行った。審議を行う IUGS 傘下の ICS (International Commission of Stratigraphy) の委員選出 (齋藤文紀氏) に協力した。

(10) IUGG 分科会 (中村委員長から代読) (資料 2-8)

6 月 27 日に開催の IUGG 分科会では 8 小委員会の活動報告があった。2017 年夏は各小委員会が窓口となっている国際学術協会の 4 年に一度の学術総会が開催されるので、それに関わる日本の研究者のシンポジウム提案や各協会執行役員に日本人を送り込む方策などについて意見交換した。また、23 期の活動を総括し、24 期に申し送る事項を議論し、本分科会の国内外における可視性の向上について意見をまとめた。

(11) SCOR 分科会 (山形 SCOR 分科会委員長) (資料 2-12)

23 期最終の第 4 回分科会を 7 月上旬に開催し、SCOR WG プロポーザル審査の取りまとめ SCOR 本部に送付予定である。2016 年以降の重要な活動として、2017 年 9 月上旬の SCOR 執行理事会 (ケープタウン)、2018 年の SCOR 総会 (英国プリマス) に続き、2019 年執行理事会の富山開催の決定と国際シンポジウム開催へ向けた日本海洋学会秋季大会と連携への支援を行った。また、ICSU による SCOR 活動レビューへの SCOR 執行部回答に対し、国内委員会からのコメントとして SCOR の専門的な海洋科学におけるリーダーシップの維持と途上国研究者の能力向上への貢献の継続に賛同するレターを送付した。GEOTRACES 小委員会は電子版アトラスの公開などを支援し、SIMSEA 小委員会は国際連携推を推進し、その母体である ICSU RCAP (アジア太平洋地域委員会) の新委員に小委員会の植松光夫副委員長が選出された。

(12) COSPAR 分科会 (佐々木 COSPAR 委員長) (資料 2-10)

23 期は分科会を 3 回 (2015 年 10 月、2016 年 5 月、2017 年 5 月 10 日) に開催し、以下のような活動に関する議論を行った。2016 年 COSPAR 科学総会 (イスタンブール) に向けての賞・メダルの推薦の取りまとめ、参加を促す活動や注意喚起を行った。ただ最終的には政情の悪化のため総会が中止となった。2018 年総会開催地の変更 (クアラルンプールからパサデナ) も続き、COSPAR として大きな課題を残すことになった。さらに、COSPAR 2017 年シンポジウム (済州島) の宣伝活動とともに、惑星保護チュートリアル の日本での開催や能力開発 WS (ロシア) への支援も実施した。

(13) IWD 合同分科会 (中村分科会委員長) (資料 2-11)

23 期では分科会は本年 7 月開催予定も含めて 3 回開催し、2018 年度の SPARC 総会 (京都) と IGAC/iCAGCP 総会 (高松) の誘致への支援を行った。さらに、旧 IGBP の活動総括 (2015 年 11 月) と「FE 時代の WCRP」(2017 年 7 月開催予定) の公開シンポジウムを主催した。なお、IGBP、WCRP、DIVERSITAS の合同分科会として発足したが、旧 IGBP 対応の 7 小委員会が 23 期の途中で FE コアプロジェクトに移行し、学術会議の FE 推進に関する委員会との一層強い連携が必要となった。移行したプロジェクトも再編されつつあり、24 期に向けて対応すべき大きな課題となっている。

3. 第 24 期へ向けての申し送り事項

- ・23 期に実施された活動状況調査に基づき、当分科会関連の各国際加盟団体について 24 期中の拠出金は確保された。24 期中に実施される調査への対応が重要である。
- ・小委員会が国際対応の中心となっている分科会では、学術会議内での小委員会位置づけがこれに呼応していないため、その改善が課題である。小委員会としての自由度や委員旅費の観点も含め、今後も情報交換と検討が必要である。

特記事項：本議事録は、全委員・全オブザーバによる確認・了承を経て、当分科会委員長により確定されたものである。

以上